

令和6年五城目町議会
3月定例会

教育長施政説明

五 城 目 町
令和6年2月26日

令和6年3月議会定例会教育長施政説明

私から教育行政施政についてご説明申し上げます。

はじめに、学校教育課関係について申し上げます。

卒業生、新入生についてであります。この春、五城目小学校を卒業する児童は50人で、これに対して入学する児童は32人となっております。また、五城目第一中学校を卒業する生徒は48人で、これに対して入学する生徒は50人となっております。

令和6年度当初の学級編制については、小学校の児童数は前年度比18人減の232人で、学級数は15学級、中学校の生徒数は前年度比2人増の133人で、学級数は7学級となる見込みであります。

来年度は小学校で高学年の理科と体育で専科指導を導入し、専門的できめ細かい指導体制を整えるとともに、中学校ではTT加配教員を活用して少人数指導を推進し、学力向上や生徒指導の充実を図って参ります。

特別支援を要する児童生徒については、学習や生活に対する支援が不可欠であることから、来年度は2名の学習支援員、11名の生活支援員を採用し、学校の実態に応じて適切な人数を配置するとともに、支援員の研修を充実させ資質の向上を図って参ります。特別支援学級や小学校に設置されている通級指導教室については、だれ一人取り残さない教育を基本に、一人一人の実態に応じた個別の支援計画に基づいて、効果的な指導と自立に向けた支援を行って参ります。不登校児童生徒の対応につきましては、令和5年度より「あおぞら相談員」を小・中学校それぞれ1名ずつ配置し、不登校に悩む児童生徒や保護者の相談に当たって参りました。不登校の要因は複雑・多様化しており、来年度は、相談回数を増やし、学校と連携を図りながら、不登校児童生徒や保護者に寄り添った対応をして参ります。また、不登校児童生徒に対しましては、学校教育活動推進員によるリモート対応も実施しております。今年度はあおぞら相談により、リモートにつながった児童生徒

もおり、一人一人に合った対応を検討しながら、引き続き継続して参ります。

次に、ふるさと教育について申し上げます。

1月25日、キャリア教育の充実に顕著な功績が認められ、五城目町教育委員会がキャリア教育優良教育委員会として文部科学大臣表彰を受賞しております。これは、本町が行ってきた「子ども議会」や「夏休み子ども体験塾」などへの取組が認められたものであります。来年度の子ども議会については、開催場所を議場とし、参加者を小学校高学年児童と中学生を対象に夏休みに実施いたします。夏休みに地域の課題への取組みや、発表方法について指導を受けながら、具体的に提言できるよう準備を進めて参ります。また、会場を議場とすることで、行政や議会の仕組みを学ぶとともに政治への関心も深めていきたいと考えております。

「夏休み子ども体験塾」については、今年度は夏の水害により実施することはできませんでしたが、来年度は新たな体験活動の場を増やし、児童生徒が

体験により地域のよさを知り、ふるさとを愛する心を育むとともに、物づくりの体験などから働くことの意義を考えることにより、キャリアプランニングの育成にもつなげて参ります。これらの事業をとおり、ふるさと教育の一環として、キャリア教育の更なる充実を図って参ります。引き続き、地域と連携し、「地域で学び、地域に貢献できる」児童生徒の育成、ふるさと五城目町の良さの発見、町への愛着心の醸成、ふるさとに生きる意欲の喚起などにつながる特色ある取組を進めて参ります。

次にICT教育の推進について申し上げます。

ギガスクール構想に基づき、実践とICTとの組合せによる教育の質の向上と教員の資質・能力の向上に努めたことにより、一定の成果が見られました。来年度は授業や家庭への持ち帰りによるタブレットの活用を図り、学力の向上、感染症や災害時においても学びを止めない教育を目指して参ります。また、次期タブレット端末の更新が迫ってきていることから、次期更新に向けて教育委員会では、国・県の動

向に注視しながら調査研究を行い準備を進めて参ります。

次に、教員の働き方改革について申し上げます。

働き方改革の一環として、校務支援システムの導入に向けて、今年度より秋田県が進める統合型校務支援システムの共同購入に参加し、令和6年4月から実証地域として参加予定の7市町村とともに検討・確認作業を重ね、運用に向けて県と準備を進めているところであります。導入後は教職員の負担軽減・超過勤務時間の削減などの効果が期待されており、削減された時間を一人一人の児童生徒と向き合う時間の確保が可能となるほか介護や子育て中の教職員の働き方が柔軟化され、負担軽減につながるものと考えております。

次に秋田県教育委員会からの委託事業の教育留学について申し上げます。

令和5年6月19日から令和6年2月9日まで20人の教育留學生の受入を行っております。今年度の特色としては、青森県、東京都、神奈川県、埼玉県、

愛知県、大阪府、京都府、沖縄県から留学生が訪れており、全国的に広がりがみられるなど、教育留学の認知度が上がり、五城目町の教育留学への関心の高さを実感しているところであります。教育留学生は、探究型の授業で学ぶことの楽しさや、児童生徒そして地域の人々の温かい気持ちに触れ、教育留学の体験が自分自身の成長と大きな自信につながっていることを感じているようであります。保護者の方々も、子どもの変化に気づき喜ぶとともに、ご自身の五城目町での体験から再度訪れたいという方もおられました。来年度は受け入れ人数を20人程度とし、ホームページなどを通じて積極的に情報発信して参ります。教育留学は、教育環境や町の魅力を全国に発信し、興味を持った人が、町を訪れ生活を体験できる事業であります。本事業をとおして、今後も関係・交流人口の拡大や移住・定住につながるよう推進して参ります。来年度が、県からの委託事業として最終年度となりますが、関係各課とも協議し今後どのように展開していくか検討して参ります。

次に、五城目小学校創立150周年記念事業について申し上げます。

町内の小学校が全て統合され、初めて迎える周年記念事業であり、五城目小学校が町民の皆様の母校として、新たに出発する節目の年と考えております。より多くの町民の皆様より五城目小学校に愛着を持っていただき、みんなの五城目小学校となりますよう、記念誌の発行、閉校した各小学校のゆかりの品を展示する「ホームカミングディ」や記念式典などを行う予定としております。また、これに合わせ旧五城目小学校跡地に記念碑の建立と、当初跡地記念碑と一緒に設置予定でありました校歌碑を現在の五城目小学校敷地内に移転させることにいたしましたことをご報告いたします。本事業の予算については、令和6年度当初予算に計上しております。

次に、学童保育すずむしクラブの受入学年の変更について申し上げます。

従来、学童保育「すずむしクラブ」は小学校1年生から3年生まで受け入れておりましたが、各家庭

の多様なニーズに対応していくため、来年度より4年生の児童の受け入れを開始いたします。定員数との関わりもあり、申し込み状況を見ながら段階的に学年を引上げ、将来的には利用希望がある全学年の児童が「すずむしクラブ」を利用できるように受け入れ態勢を整えていく予定であります。なお、現在小学校4年生から6年生を受け入れている学習支援事業「わかすぎくらぶ」につきましては、来年度以降も従来どおり事業を継続いたします。それにより、小学校4年生進級時に、ご家庭の希望によりどちらかを選択して利用できることとなります。

つづいて、生涯学習課関係について申し上げます。

「人生100年時代」、「超スマート社会」に向けて、社会が転換期を迎える中で、生涯学習の重要性が高まっております。生涯学習課では、令和6年度の生涯学習の推進にあたり、社会教育の意義である「人づくり」「つながりづくり」「地域づくり」の3本の柱を掲げ、学ぶことができる環境、学習機会の

提供、学習した成果が評価され、それを生かした様々な分野で活動できるようにするための仕組みづくりを進めて参ります。

はじめに3年目となる「みんなの学校」について申し上げます。

令和5年度は34講座実施し、延べ約1,800人の参加を得ております。小学校を活用しての講座実施はメディア等にも大きく取り上げられるなど、大人の学びの場として町内外の皆さんからも好評をいただいております。今後は、より地域の要望に応じていけるような講座運営に努め、誰もが気軽に集い、学ぶことができ、子供と大人の境界線を越えた新たな学びと出会いを創出して参ります。

次に、「地域図書室わーくる」について申し上げます。

令和6年1月末までの利用者数は6,595人、貸出冊数は5,683冊となっております。また、令和3年度開設以来の利用者は1月で2万人を達成するなど、読書活動への関心が高まってきておりま

す。今後も、蔵書の充実に努めるとともに、「みんなの学校」や「わらしべ塾」などとも連携し、読書の場としてだけでなく、町民の交流の場として特色ある運営に努めて参ります。

次に、スポーツ活動について申し上げます。

多世代間の新たな交流の場として中央公民館を中心に取り組んでいるeスポーツについては、高齢者も楽しんで参加できる場として好評を得ております。今後はみんなの学校事業、小・中学校との連携、スポーツ教室などを通じて、多世代間の交流を深め、普及活動に努めて参ります。

次に、令和6年に町出身の女流作家矢田津世子没後80周年を迎えることから、関係機関と連携し特別展を企画するとともに、故近藤富枝氏所蔵の未発表原稿や資料を展示するなど、矢田津世子文学記念室の展示替えを進めて参ります。また、児童生徒のふるさとを見つめ直す機会として作文の募集も考えております。幼少期を五城目町で過ごし、五城目町への強い思いを表現している矢田津世子の文学的価

値を今後とも後世に伝えるよう努力して参ります。

次に、中学校の部活動地域移行について申し上げます。

休日の部活動については、学校を含め地域で子どもたちを育てることを目標として、地域の指導者に委嘱し、社会スポーツの一環として地域移行を進めております。来年度は、各部2名を上限とし、指導者に対する保険料・謝礼金等を当初予算に計上し、部活動の地域移行を充実させて参ります。また、今後の部活動の加入状況や周辺市町村の動向を見極めながら生徒が活動しやすい環境を整えて参ります。

以上、教育委員会関係の令和6年度の主な施策について申し上げますが、町の総合発展計画に掲げる「郷土を育み、未来を担う人づくり」の実現に向かって、本町の教育振興を図ってまいりますので、町議会のご指導とご理解を賜りますようお願い申し上げます。